日本新生児看護学会誌　Journal of Japan Academy of Neonatal Nursing Vol.6, No.1, pp. 34－38, 1999

当院 NICU における面会の実践報告

——24時間自由な入室面会を実施して——

Visiting Practice at the NICU of Saint Luke International Hospital
—— Practice of 24－Hour Free Ward Visit ——

渋井　恵　　鈴木智恵子
Megumi Shibui　Chieko Suzuki

要旨

本研究は，当院 NICU における，24時間面会の現状と，両親と看護婦の反応を知り，今後のあり方を検討することを目的としたアンケート調査である。対象は，両親85組（170名）と NICU 看護婦13名であった．調査内容は，実際面会した時間帯や，24時間面会の受けとめ方，両親以外の面会などであり，その結果，次の知見が得られた．

面会の集中した時間帯は，父親は，早朝や18時以降，母親は，10時～16時と，両者により異なっていた．両親の半数以上が，毎日１時間以上面会をしていた．しかし，家族によっては，時間帯や頻度などは，状況に応じて変えていたという答えもあった．24時間面会は，全員が良かったと答えており，理由は，「いつでもあえる安心感」「子どもの状態を聞くことができる」「子どもを知ることができる」「愛着がわく」があった．多くの祖父母が面会を希望していたが，入室面会をしたのはわずかであった．看護婦は全員が，24時間面会の継続を希望していた．以上より，本体制の良さと，スタッフの意識が再確認された．

キーワード： NICU，面会時間，ファミリーケア

We conducted a questionnaire survey with the aims to clarify the status of 24-hour visits at the NICU of our hospital and examine the responses of parents and nurses as a guide for future directi-on of the visiting practice. Eighty-five parent couples (170 persons)and 13 NICU nurses were surveyed. The contents of the survey included the time zones of the actual visits,the reaction to 24-hour visits, and visits by personsother than the parents. The following results were obtained. The most intensive visiting time zones were early morning or after 6p.m. for fathers and 10 to 4p.m. for mothers,which differed between fathers and mothers.

Over half of the parents visited for over 1 hour everyday. However,some families answered that the visiting time zone and frequency differed under different situations. All the parents surveryed were in favor of the 24-hour visiting practice. The reasons included "reassuring that they can visit any time", "can inquire about the condition of the child",

Accepted : January 4, 1999
聖路加国際病院 St Luke's International Hospital

"can get to know the child",and "develop attachment with the child". Many grandparents wished to visit, but only few actually visited inside the ward. All the nurses surveyed expressed a desire to continue the 24-hour visiting practice. These findings confirmed the merits of the 24-hour visiting system and the positive attitude of the staff.
Key words : NICU, extension of visiting hours, family care

I．はじめに

NICU において，面会時間の拡大は，両親，子どもにとって好ましいことであり，多くの施設においても，制限の緩和が検討されている．しかし，対応が不可能，業務への支障等の理由で，やむをえず，面会時間を制限している施設が多いのが現状である[1)]．

当院では，6年前より，両親の24時間自由な入室面会を実施してきた．そこで今回，面会の現状と両親とスタッフの反応を知り，今後のあり方を検討することを目的として，両親と看護婦にアンケート調査を行った．

II．研究方法

1．対象

平成7～9年に当院で出生した，10日以上入院した子どもをもつ両親85組（170名）と，NICU 看護婦13名（経験年数1～12年，年齢23～49才，婦長を除く）

2．方法

両親：郵送式による，無記名式のアンケート調査．
看護婦：無記名式のアンケート調査．
質問の内容　両親「最も多く面会した時間帯」「面会頻度」「1回の面会に要した時間」「24時間面会の受けとめ方」「両親以外の面会の現状」看護婦「24時間面会の受けとめ方」「両親以外の面会について」

III．結果

アンケートの回収率は，両親59組（父親59名，

表1．聖路加国際病院 NICU

定　床	未熟児室8床，うちNICU 6床(認可)．年間入院件数200件前後．
スタッフ	医師2名（常勤2．非常勤0），看護婦13名，クラーク1名．
看護体制	日勤4，準夜勤2，深夜勤2．
構　造	1フロア2室（NICUと未熟児室）．図1参照．
面会時間	毎日24時間OK．入室は両親および祖父母（両親の希望があった場合）．

表2．当院 NICU の面会方法

面会時間		制限なし（毎日24時間）
面会可能な対象と方法	両　親	入室面会
	祖父母及び他の家族	原則として窓越し面会．ただし以下の場合は入室面会可能． 両親の希望がある場合（特に，出生時，ターミナル等）
面会時のケア内容		両親，児の状態をアセスメントした上で可能であれば以下のケアを促している． タッチング，ベビーマッサージ，カンガルーケア，抱っこ，添い寝等．
入室面会時の留意点		・両親への記録物の公開　事前に記載内容について説明した上で公開する． ・家族，児のプライバシー保持 ・適宜他児との間にスクリーン等を用いて仕切りを立てる． ・他児の記録は見えないように置く位置を配慮する． ・緊急の入院，検査処置等の場合，一時退室していただくこともある．

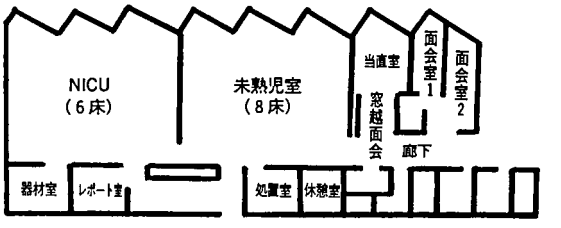

図1．病棟見取り図

母親59名）で69%，看護婦は13名で100%であった．

1．面会の現状

実際面会した時間帯は，各家族，および父親，母親で異なった．結果は**図2**のとおりである．

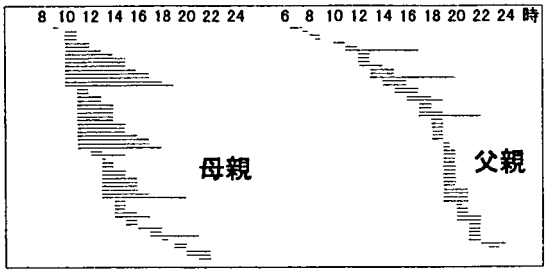

図2．面会及び滞在時間（縦軸は個人を表す）

父親は，6～24時まで回答があったうち，18時以降に多く集中していた．理由は，「仕事の都合」が49名（83%）であった．また，4名と少数ではあるが，9時以前という早朝に来院するものも見られた．

母親は，9～22時までの回答があり，10～16時という昼間の時間帯に集中していた．その理由として，遠方のため（交通が空いているとき）18名（31%），授乳時間に合わせて11名（19%），上子の世話，家事が終わってから11名（19%）であった．

面会頻度は，父親は毎日29名（49%），1週間に2～3回13名（42%），母親は毎日43名（73%）であった．（**図3**）

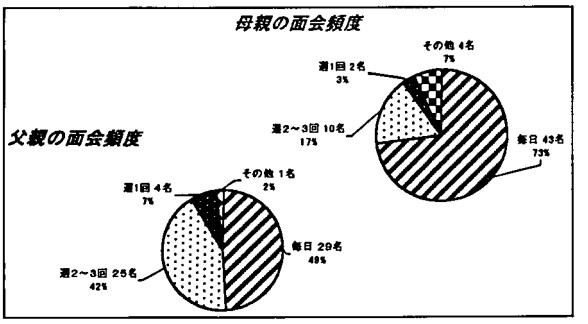

図3．面会頻度

1回の面会に要した時間は，父親は，30分～1時間54名（92%），母親は，1時間以上48名（83%）が最も多かった．中でも，最も長い人では，5～7時間，子どもと共に過ごしていた．

また，両親によっては，平日より休日に長時間面会したり，1日に何度か面会したりと，両親のおかれている状況に応じて変えていたという答えもあった．

2．両親の受けとめ

24時間面会は，全員が良かったと答えている．主な理由は，「いつでもあえる安心感」「医師や看護婦から，子どもの状態を聞くことができる」「好きなだけ一緒にいられて子どもをよく知ることができた」「会うたびに愛着がわいた」であった．（**表3**）

表3．24時間面会がよかった理由

いつでもあえる安心感	99名
医師や看護婦から子供の状態を聞くことができた	97名
好きなだけ一緒にいられて子供をよく知ることができた	78名
会うたびに愛着がわいた	65名
育児ケアを見ることができた	64名
育児ケアを行うことができた	49名
自信がついた	5名

対象：父親59名，母親59名（複数回答）

両親以外の入室面会の希望があったのは，父親48名（83%），母親51名（86%）であった．中でも，祖父母の希望が多く，父親39名，母親48名であった．次いで，叔父，叔母，上子などであった．そのうち，実際入室面会したのは，父親18名，母親14名であった．入室面会しなかった理由として，「規則だから従った」21名，「（両親が）会わせたくなかった」5名があった．また，窓越し面会や，母児同室時に面会したという答えもあった．

3．看護婦の受けとめ

看護婦へのアンケートでは，全員が24時間面会を続けていきたいと答えていた．理由として，「家族が会いたい時にあえるのは当然の権利」「親子関係発達のため」があった。

両親以外の面会については，「行っていきたい」9名，「行っていきたくない」4名であった．意

見の中には，「対応困難」「他児のプライバシーが保持できない」「両親との情報伝達のずれ」で，全面的に賛成できないが，長期で家族のサポートが必要なときや，出生時のみ等，制限付きですすめていきたいというものが多かった．

Ⅳ．考察

面会した時間帯とその理由についてみると，父親の場合，仕事の時間を避け，早朝や夕方に来院していた．また，母親は，子どもと自分の生活のリズムを調整して来院していた．

このように面会時間を自由にすることで，家族は，面会時間に自らの生活パターンを合わせるのではなく，生活パターンに合わせたもっとも負担のない時間帯に，来院可能となっていたことが考えられる。

現代の社会状況を考えると，出産後，早期に社会復帰する女性の増加や，核家族のため，上子を預ける人が近くにいなかったりと，様々な社会的背景，家族的背景をもち，面会に来る時間が限られている家族もいると考えられる．そのような家族にとっても，家族の都合に合わせた時間に，好きなだけ面会可能であることは，重要なことであると言える．そしてそれが，面会頻度の増加や，24時間面会が良かった理由としてあげられた，いつでもあえる安心感を与えることにつながると考えられる．

次に，面会の受けとめについてみてみる．子どもについての情報提供は，両親の強いニーズであるといわれているが[2]，面会の機会が増えることにより，子どもとスタッフとの関わりが十分とれることで，それを満たすことができていたことがわかった．さらに，育児参加や相互行動場面が増え，愛着形成を促したり，退院後の育児の助けになると考えられる[3]．

スタッフへのアンケートでは，両親の24時間面会が，困難であるという意見はなかった．以上のことから，24時間面会の良さとスタッフの意識が再確認された．

日本の現状として，面会の拡大がなかなか進んでいない。その主な理由に，さまざまな時間帯に両親が来ることによる，対応困難，医療，処置が妨げられることへの恐れなどが挙げられている[1]．

しかし，実際に24時間自由面会の面会状況を見ると，両親の多くは日勤帯から準夜帯の前半に集中している．スタッフのアンケート結果からも，前述のような困難を指摘するものはなかった．これより，一般的に，面会時間拡大により生じるのではないかといわれている問題は顕在化していないことがわかる．

各家族，および父親，母親の来院する時間帯を把握し，業務を調整し，対応する時間を作ることが可能であると考えられる．

Heater.B.S. は，面会における基本的前提として，「入院という事態にあっても，患者と家族は一緒にいることができるという権利をもっている」[4] と述べている．当院でも，引き続き本体性を継続していき，今後は，両親の背景と，面会状況との関連性についてみていきたい．

最後に，今後の課題として，ただ単に，接触の場を増やすだけでなく，質の高い有意義な面会を提供するには，面会中の両親と子どもの関わりについてみていき，環境をさらに整えていく必要がある．

また，両親以外の面会についても，多くの祖父母が面会を希望していたが，入室面会したのはわずかだった．両親の希望があった場合には，できる限り行っていきたいが，両親やスタッフの中には両親以外の面会を希望しない意見もあった．対象の拡大の範囲や，その方法は，家族にとって望ましい形を，ケースごとに検討していきたい．

Ⅴ．結論

1．24時間面会は，家族の都合のよい時間に，好きなだけ面会でき，安心感を与えたり，面会頻度の増加につながる．
2．情報を得る機会が多く，子どもについての認識が深まる．

3．ケアの参加により，愛着形成を促したり，退院後の育児の自信につながると考えられる．

謝辞

最後に，アンケートにご協力くださいましたご両親と，ご指導を賜りました，聖路加看護大学大学院　木下千鶴先生に深謝いたします．

引用文献

1）横尾京子編集：NICU 長期入院児の看護：NICU における家族の入室面会，Neonatal Care Vol.9 春季増刊：19-24 1996.

2）Hicky,P.A.,and Rkyerson,S.:Caring f-or parent of Critically Ill Infants and Children,Critical Care Nursing Clinics of North America4 (4)：565－571 ,1992

3）Klaus, M.H. and Kennell, J.H. : Parent-I-nfant Bonding, 1982, 竹内徹他訳，親とこのきずな，221-325，医学書院，1985.

4）Heater,B.S.:Nursing Responsibility in Changing Visiting Restrictions i-n the Intensive Care Unit, HEART & L-UNG, 14(2):181－186, 1985.